

平成 26 年度 全国中学生 人権作文コンテスト 滝川地区大会入賞

【滝川地区大会会長賞】受賞
プライバシーの問題



赤平中央中学校 3年
高屋 菜都美 さん

私達の国では、プライバシーの権利(個人情報保護法)という法律がありますが、近年では子供の個人情報の流出が多くおこり、私達未成年者の安全が保証されなくなってきました。でも、私は最初ニュースを見た時は、私にはあまり関係のない事だと思いき重々視していませんでした。

しかし私の考えを変えたのは2つの出来事でした。
まず、一つ目の出来事は、昔やっていた通信制のゼミからの手紙でした。学校から帰ると郵便受けに一通の手紙が入っていました。宛先の所に私の名前が書いてありすぐに封筒を開いて中の紙を読んでとてもおどろきました。そこには私の住所や年齢などの個人情報が出たという知

らせた手紙でした。私はその時、あわてて親に相談しましたが、流出してしまったものは、しょうがなく私は今でも少し警戒しながら生活しています。
二つ目の出来事は、携帯のインターネットで起こりました。ある日、私が携帯の「+ + + + +」を使っていて、起りました。あの頃、私は携帯を持ってから数ヶ月もたつていなかったのですが、まだ携帯の危険性をあまり知りませんでした。
私が携帯を使っていると「+ + + + +」に一つの通知が送られてきました。通知を開くと一人の人から「こんにちは。」とメッセージがきていました。私はあまり警戒心を持たずに「こんにちは。」と返信してしま

いました。思い返すとあれが事の始まりでした。すると、その人は、私の好きなアニメの話を持ち出して、私もその話しに乗りとても盛り上がりました。
そして、話し始めてから約一時間程たつときいきなりその人は、「本名は何ていうの?」と聞いてきました。その時、私は疑名を使っていたので何となく本名を教えるのは抵抗があり「内緒」と言つてやり過ぎたのですが、その後「どこに住んでいるの?」年齢は何歳?などと聞かれ、私はほとんど不信任を抱き少しずつ恐怖感をおぼえ、携帯の恐ろしさを感じました。
私はその後、携帯の中から「+ + + + +」を消しました。それから私は、インターネットを使う時なども個人情報(本名、住んでいる地域、歳など)の流出しない様に気をつけています。ですが、自分で気づかないで個人情報の流出を止められずに大事になる人もいます。

よくニュースでは、未成年がインターネットやSNSで知り合った人と仲良くなり自分で相手に個人情報を送ってしまい気づかないうちに流出して、何かにまきこまれたり、事件にあつてしまつた事があると話していました。
今このインターネットを多く使う時代では必ず、少しの警戒心を持ち、自分自身での個人情報を守るべく減らして安心した生活を送れるようにするべきだと思います。そのためには、インターネットの怖さを知らなければいけません。
そのためには、教育の一つとして学校の道徳などで小・中学生に伝えるべきだと思います。そして、小・中学生の被害を減らして、幅広くインターネットが使えるようになって欲しいです。
情報化社会の今、私達とインターネットなどはどうしてもかき離れることが出来ないものです。私達の国には、プライバシーの権利という、私達未成年や国民の個人を守るための法律があります。しかし、法律があるとしても私達が自分自身で情報を流出してしまつと意味がなくなつてしまいます。だから、私達自身が自分の安全な生活を守らなければいけないのです。
私達の国、日本はとても安全で安心できる国ですが、私達自身も自分達で自分の情報と供に安心できる生活を守らなければいけないのです。
そして今の私達未成年が大人になつた時、自分の子供達にも伝えていき、この安全な国をそのまま受け継がせ、いつまでもプライバシーの権利という法律を大事にしていきたいと思ひます。

節電 アクション

ご家庭における節電のお願い

日頃より、節電にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
今冬におきましても、引き続き、節電にご協力をお願いいたします。

ご家庭で節電をお願いしたい期間・時間帯

12月1日(月)~3月31日(火) 平日8時~21時

※12月29日から31日までおよび1月2日を除く。

- 特にご家庭においては、電気のご使用が増える夕方以降(16時~21時)の時間帯の節電にご協力をお願いします。
- なお、この冬の需要として見込んでいる定着節電量の水準(2010年度最大電力比:▲4.7%)を目安に節電をお願いします。
- 冬季の北海道は夜間も電力需要が高い水準にあるため、上記以外の時間帯についても、可能な範囲での節電をお願いします。

冬の北海道における平日のご家庭での電気の使われ方(イメージ)

節電にご協力いただきたい電気製品

照明、冷蔵庫、テレビなどを中心に、普段からお使いの電気製品の節電にご協力をお願いします。

ほくてん



喜んでくれる姿を
見ることが
私たちの喜びです。

ひまわり姉妹 重原 美子さん

『住民の顔が見える広報』を目指し、地域おこし協力隊が
まちに飛び出て市民の皆さんをクロスアップ！
第8回目は、ひまわり姉妹として赤平市内はもちろん、道内各
地の施設に慰問活動をされている重原美子さん。常に笑顔を絶
やさない、重原さんの活動の原点に迫ります。

活動を始めた
きっかけは？



子どもの頃から歌を歌うことが大好きで、「うたごえ愛好会」に入会してからは各地のカラオケ大会などにも出場し、ありがたいことに何度か入賞することができました。

20年前、私のことを一番に理解し、応援してくれていた主人が他界してしまい、シヨックのあまり8年ほどマイクを握れずにいた日々が続きました。そんなときに、いま一緒にコンビを組んでいる八重ちゃん(保坂八重子さん)が『一緒に歌を歌って、慰問活動しない？』と声をかけてくれたんです。これがきっかけで『ひまわり姉妹』としての活動を始めました。今でこそ、全国各地で慰問活動を行なっていますが、初めて施設を訪れたときは、これまでに無かった『歌うことへの喜び』を改めて実感することができました。

活動していて
印象的だったできごとは？



活動していくなかで、縁あってオリジナル曲をつくって頂く機会がありました。その曲のひとつ『帯』という曲は、訪問先で



▲参加者と楽しく歌う重原さん。いつも会場は笑顔で溢れている。

必ず披露しています。毎年訪問させて頂く施設の利用者さんは、歌詞を完璧に覚えてくれていて、私と一緒に『帯』を口ずさんで歌ってくれるんです。その姿を見たときは、私たちの訪問を心待ちにして頂いていることを肌で感じた瞬間で、本当に嬉しい気持ちになりました。

いつも皆さんにたくさんのお元気を届けようと思いつつながら活動しています。ですが、訪問する度に『待ってたよ』『おかえり。』という声や、握手をするときに見せるとびっきりの笑顔を見ると、気付けば帰るころには反対に私たちが利用者の皆さんから励まされて元気を頂いているんですよね。

今後の目標は
何ですか？



私にとって歌は、人生のすべてです。歌を歌っているだけで、

とっても幸せな気持ちになります。これからも声の続く限り、八重ちゃんと一緒に歌って笑っていつまでも現役で活動することが私の目標です。



ステージ上ではお互いのことを『やえちゃん』『よしちゃん』と呼び合う。『一緒にコンビを組んで、もう13年も経つんですね。』と明るい笑顔で振り返った。



編集後記

地域おこし協力隊 まちの情報発信部門
愛知県出身 野口 暢子

今年の目標を一文字で表しました。ズバリ『繋』です!! まちの情報発信などを通して、人との出会いを『繋げる』きっかけを作れるよう頑張りたいと思います!! 本年も赤平市地域おこし協力隊の応援をよろしくお祈りします!

